

シリーズ 私が、がんと診断された時 「知っておきたい緩和ケア」 第一話

＜緩和ケアの提供場所＞

緩和ケアとは「**重い病を抱える患者やその家族一人一人の身体や心などの様々なつらさをやわらげ、より豊かな人生を送ることができるように支えて行くケア**」と定義付けられています。

緩和ケアはがん治療が出来なくなってから始めるものではありません。身体や心のつらさが大きいと、体力を消耗することにより、がん治療を続けることが難しくなります。

そのため、がんと診断された時から主治医を中心とした基本的な緩和ケアが提供されますが、困難な状況に対応する緩和ケアを提供する場所として、現在は以下の3つが利用出来ます。



（緩和ケアチーム）

一般病棟に入院し、がん治療をしながら担当医や緩和ケアチームのケアを受けることが出来ます。具体的には、入院している患者さんの病室に伺って、痛みなどのつらい症状について診察や治療を行います。**緩和ケアチームにはさまざまな専門家**がいるので、がん治療を担当する医師や看護師などと連携しながら、多角的な視点で問題を洗い出し、解決方法を検討します。



（緩和ケア病棟）

アルメイダ病院には緩和ケアを専門としている病棟があります。緩和ケア病棟ではがんを治すことを目的とした治療が困難であったり、あるいはそれを希望されない患者さんに対して緩和ケアを提供しています。身体や心のさまざまなつらさを出来る限りやわらげる治療やケアを行っています。**緩和ケア病棟で症状をやわらげてから**、退院をすることも可能です。



（在宅緩和ケア）

ご自宅で療養をしながら、緩和ケアを受けることが出来ます。ご自宅で療養を支えるのは、緩和ケアの知識を持った訪問診療医、訪問看護師などです。ご自宅では、入院中のように一日中「患者」として過ごす必要はなく、住み慣れた家で自分のペースで日常生活を送ることが出来ます。在宅緩和ケアを選択したからといって、アルメイダ病院での診療がすべて終わってしまうわけではありません。訪問診療医と担当医との連携は継続しているので、必要があればいつでもアルメイダ病院に入院出来ます。



次回からは、緩和ケアチームについてお話したいと思います。